

||||| センター事業団だより |||||

地域を変える労働者協同組合の事業所に

木下 博行（センター事業団 神奈川事業本部）

先日、三島共立病院（静岡健生会）との共催で行った3級ヘルパー講座の修了式に出かけました。三島共立病院とはこれまで3級2回、2級1回の共同開催をしてきています。修了証書の授与に先立ち、労働者協同組合法制定運動と地域福祉事業所づくりの取り組みについて話をさせていただきました。修了式後の懇談会で、伊東市から講座に通われていた受講生から、「伊東のほうでも2級講座を開いていないでしょうか？」という問いがありましたので、「あなたが開いてください。センター事業団ができる限りの応援をします。」と答えましたら驚いたようでしたが、一瞬目が輝きました。そんなことができるんだろうかという不安と、自分でもできるんだという想いが胸をよぎったのだらうと思います。そして、労働者協同組合という組織に大きな関心を示したのです。こういう人々がヘルパー講座からはたくさん生まれているように思います。今、労働者協同組合という働き方が新鮮な驚きと関心をもって、新しい働き方を求めている人々に広がり始めているような気がします。

神奈川で誕生した「であいの家」や「もみじ」といった地域福祉事業所もそういう人々によって支えられ、介護保険のサービス提供事業者としても信頼を高めてきています。「もみじ」は、「はじめ工房」（パン工房）がヘルパー講座を開催し、その修了生の手によって開設されましたが、地元の方々からは、「もみじ」自体の心のこもったサービスに加えて、

「あのパン屋さんのヘルパーステーションだったら信頼できる。」ということでサービス利用者からの問い合わせが増え、また、ケアマネージャーからのサービス提供の依頼が増えています（協同の発見第100号に詳細）。

一方、「もみじ」は、経営で困難を抱えている「はじめ工房」のパンの売上・普及に力を出しており、協同の相乗効果を生み出しています。はじめ工房は9月には、TV東京の番組「アド街ック天国」で、相模原のこだわりのパン屋さんとして紹介され、9月度は今年度の月間最高の売上を記録しました。

三浦市にはセンター事業団の事業所はありませんが、センター事業団主催で3級と2級のヘルパー講座を開催してきました。そして、4月から開いた2級講座は三浦市の「家族介護者等訪問介護員要請」補助金第1号の指定を受け、三浦市からの仕事おこしの期待も強まっています。修了生の同窓会でも「県営住宅に住む一人暮らしの高齢者をボランティアでもいいからお世話をしよう。それを事業所づくりにつなげられれば」という想いが生まれています。

こうした、地域での新しい人々の登場や、自治体との新しい関係は、やがて政治の場に登場するであろう労協法案制定へ大きな影響を与えることになるでしょう。そして、さまざまな労働者協同組合の登場は、新しい福祉社会の創造に向け力強い歩みを作り出すことになることを確信させるものです。